

平和と憲法9条への熱い思いを語ろう！

子ども文庫に関わってきた仲間からの発信です

ただひたすら平和を願っている私たちの思いを
縦にも横にも、広く深くつないでアピールしてゆくことが出来れば何よりのことと思います。



『世界がもし100人の村だったら』
池田香代子再話(マガジンハウス)より

まえがき 「未来に生きる子どもたちのために」

いま、日本を、世界を生きる私たちの前には、大きな暗雲がたれこめています。それは、ずばり戦争の危険性です。このまま進めば、未来に生きる子どもたちを再び戦火の中にさらすのではないかと…いたいいけな子どもたちを、戦争という狂気の世界に放って、私たち大人世代は交代していった方がいいのか…

私たちは、子どもの健やかな成長を願い、読書の喜びを知って欲しいと願って、長年にわたり、家庭や地域、学校などで子どもと本を結ぶ、その他様々な文化に係わる活動を続けてきました。そして、子どもたちに、生命を大切に、他者への優しさや思いやる心、豊かで深い知識や想像力、生きる力につながる思考力や創造力を育てて欲しいと願って来ました。

しかし、残念なことに、いま日本の子どもたちは、ショッキングな殺傷事件、虐待問題等、受難の時代を生きています。また、世界のあちこちで、戦争や紛争の最中に殺され、傷つき飢えている子どもたちがいます。

かつて60年前の戦争を大人たちはくい止めることが出来ませんでした。イラク戦争も世界中の多くの人が反対したのに、止めることが出来ませんでした。もうこのような過ちをくり返すことがあってはならないと強く思います。今そのために何かしなくては悔いを残すだろう。そんなやむにやまれぬ思いから、出来ることはないか考え続けて来ました。昨秋から有志で語り合い、それが下記のような取り組みとなり、9月までに集まったメッセージをこのような冊子としてまとめました。

平和と憲法9条への熱い思いを語ろう！

小さな声を集めて一つの力に

私たち、子どもや子ども文庫、子どもの文化に関わってきた者として、軍事力で世界を動かし、生命の尊厳を傷つけ、地球を破壊するような今日の世界の戦闘状況に、深く胸を痛めない日はありません。

平和を守る最後の砦である「憲法9条」の見直しが迫っています。イラクの戦争は、日を追う毎に凄惨な状況を極め、政府は莫大な復興支援と、自衛隊の派遣を決行し、もはや私たち日本人として傍観する事は出来ません。

世界で初めて原爆の被害を受けた国として、再び戦争をする国にしないように平和憲法を守ることは、今、世界中の人達が期待していると思います。

生命、地球、大地を守るため、私たちもささやかながら地球の片隅から声をあげ、人類の破滅に繋がる全ての戦争に抗議の声をあげましょう。

平和と憲法9条に対するあなたの思いをお寄せ下さい。

2004年3月



子どもたちが、
戦火の空を見ず、
灰色の悲しみを知らず、
凍りつく恐怖にさらされることなく育つように、
人間としての誇りを失うことなく生きていけるように、
この国の憲法はある。
そしてそれらは、
どの国の人にとってもあたりまえのことであるはずだ。(Rey 50代 女性)



嬰兒(みどりご)を抱けば戦のない世界 ひたすら祈る命愛(いとお)し
アメリカも日本もイラクも 新しき生命(いのち)の重みは変わらぬものを(瀬川 女性)



春に咲き誇る桜の花のように
憲法9条は、この国に生まれ育った私の誇りです。
私は誰にも殺されたくないし、誰も殺したくはないのです。
私に繋がるすべての人も誰かに殺されたくないし、誰をも殺めて欲しくないのです。
私の誇りを、願いを踏みにじろうとする、憲法改悪に断固反対します。(中川 40代)



自衛隊、イラク派遣についてのニュースがテレビで流れた直後、わたしの中学では、社会の授業の中でこのことについてみんなと話し合いました。まず、自衛隊派遣について賛成か反対かにわかれ、なぜその意見を選んだか討論をしました。反対の人が多数を占めました。賛成の人も4~5人いました。この事に関しては、みんなそれぞれの家庭で話し合った人も多くて、そのことに付いて話した人も多かったです。

賛成の人は、“他の国のひとを助けるためなら仕方ない、行くべきだ”と、言っていました。私は“賛成”の人たちの気持ちが分かりません。毎日、テレビで報道されるニュースの中では、イラク戦争で家族を失った人々が泣き叫んでいました。それも、ほんの一部で、考えられないくらい多くの人々が今も飢えや病気で苦しんでいるのです。

また、テロも毎日のように起こっています。そこに、イラクの社会の建て直しだからと言って、自衛隊を派遣する意味がどこにあるのでしょうか。彼らは、他の国の軍隊なんかよりも、食料や医療など、生活のための救援物資を望んでいると思います。もし、私たちが飢餓で苦しみ、重い病気で死にそうになっているときに、自衛隊が本当に必要なのでしょうか。

今回の自衛隊イラク派遣については、怒りを感じています。政府は、アメリカの圧力に押され、平和憲法をも無視して自衛隊派遣に踏み切ったのです。こうした行動を止めさせるためには一人一人が平和を守るための意見を多くハッすることが大切だと思います。

私は自衛隊イラク派遣に絶対反対です。(Chisato 中3)



一票に願いをこめて

確かに与えられた憲法ですが、与えた側の意図はともあれ、私たちには世界に比類のないこの憲法を誇りに思ってきました。

「日本国民は恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するものであって、平和を愛する諸国民の構成と信義に信頼して、我らの安全と生存を保持しようと決意した。(中略)日本国民は、国家の名誉にかけて全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う。」と前文に謳い、九条に「国権の発動たる戦争と武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と規定しているこの憲法を揺るぎないものと信じてきました。

ところが今、与えた側の事情によって、この憲法が危なくなってきました。このままではまた、かつてのように、戦争に引きずり込まれるかも知れません。何とかしなければなりません。

今、私たちに出来ることはただ一つ、選挙権を行使することです。一人一人自分の胸にしっかりと聞きましょう。夫や子や孫を戦場に送ってもいいか、白旗に包まれた帰国を迎えてもいいか、故郷を砲火の下に曝してもよいのか、また、他国の子どもたちを殺させてもいいのか、よく自分の心に聞いて、その思いを一票に託しましょう。

子や孫たちの明るい未来を守るために、一票に願いをこめて。(矢崎 60代 女性)



子ども時代から戦中戦後を体験した大人として、今また、よみがえるあの時代の記憶

1. 戦争の美化・正当性の強調
1. 言論統制・情報網の操作
1. 文化・芸術・スポーツ等への干渉・制限
1. 軍事教育(愛国精神・愛国行為の強要)
1. 食糧・生活物資の欠乏
1. 国家行事への動員(半強制)

半世紀余りを平和憲法のおかげで忘れていたものが、わずかに垣間見えたりダブって見え始めました。知らぬ間に世界2位たる軍備を持ち、今イラクへ・・・とまで事態が進んでしまった日本。原爆洗礼の人体実験までされながら、以来多民族の争いに乗じて新兵器の威力を験し続ける非人間的な国に追従するばかりの日本。

世界に誇れる平和憲法を持ちながら、それ故に得られた信用も忽ちのうちに地に落ち、危機さえ呼ぶ愚かしい行動をとる日本で、では国民の私たちは・・・？未来の平和を約束できない大人を子どもたちはどう見るのでしょうか・・・。(Y.Y. 70代 女性)



昨年暮れに、「シンドラーのリスト」という映画を見て、戦争の悲惨さを一部、膚で感じました。私は箏曲以外では外の活動はしていないので、母として「息子が戦争に行かされるようなことがあったら」絶対許さないということに、終始しています。個人が平和なら争いは起きません。大事なのは「いのち」あること。そう思って毎日生きています。

先日、橋田寿賀子さんが「テレビで、私の作品の底にあるものは「反戦」です。」と言ってみえました。「えっ」と私は思いましたが、だから橋田さんはがんばれるんだとも思いました。

箏曲は、全身で向き合います。これも生きる力だと思っています。生きるには、戦争は不可。(Y.O. 40代)



今こそ日本の宝憲法九条を世界の宝に！！

No War on Iraq ! We want peace ! (瀬川 女性)



本当に、世界中の子供たちが毎晩、安心して眠ることができますように。空腹を抱えて眠る子が一人もない、そんな時代を作りましょう。(関谷 女性)



「間違った戦争」を支持した「間違った判断」で、また命を失う人がいるのではないですか！

亡くなったお二人の“遺志を継ぐ”って軍を送り込むことなんですか！(T. 40代 女性)



毎日、子供たちと向かい合う中で世界の動き(とりわけ日本政府の動き)には、敏感になります。自衛隊のイラク派遣に対し憤りを感じます。アメリカのしていることは、テロであり戦争そのものです。私たちが世界に誇ることのできる平和憲法放棄違反です。かつて誓った一教え子を二度と戦場に送らないことを柱に出来た日本教職員組合は、今一体どうなっているのでしょうか。

イラク人民から一度たりとも兵器を持って支援してほしいと頼まれたのでしょうか？他人の家に土足で入るようなものです。アメリカのいいかげんな情報に踊らされているのです。子どもたちに確かな平和な社会を残すために、自衛隊はイラクから撤退すべきです。

イラクにも明日を担っているたくさんの子供たちがいます。世界には、たくさん明日を夢見ている子供たちがいます。私たちは、彼・彼女たちに恥ずかしくない生き方をしなければなりません。(伊藤洋子)



日本はいま世界に誇れる大きな「宝もの」を失おうとしている！
武力でなく、軍事力でなく、核兵器でなく、
話し合いで世界の平和を守ろうと・・・
大きな声で、胸を張って訴えることの出来る“憲法9条”を。
この宝ものを捨てようとしている人たちは、イラクで、アフガンなどで、
戦争やテロ、特に劣化ウラン弾などの爆撃で苦しむ人々の姿、写真を正視出来ますか？
わが子や孫、自分に置き換えてみれば・・・
爆撃にさらされ、虫けらのように殺されてゆくことに耐えられますか？
地球も悲鳴をあげて泣いているでしょう！
大地も空気も水も汚染され、生きとし、生けるものの生命が失われ、とだえようとし、
人類はもちろん、あらゆる生物の破滅につながってゆく明日を。
(劣化ウラン弾の放射性物質は自然消滅に45万年・・・そう半永久的に)
あの第二次大戦の時、戦地で、あるいは特攻隊で、
兵士は母あるいは妻・恋人の名を呼びつつ屍となった。
国内では、家を家族を焼かれ、赤紙におびえ、食べ物もなく
「銃後」を守った人々の暮らしのつらさを、悲しみの日々を。
戦前・戦中に生まれた人は、思いだしてください！
戦後に生まれた人は、どうか想像して下さい！
多くの犠牲の上に、ようやく戦争が終わり、新しい憲法の誕生！
そのとき、日本のあらゆる人が心から開放感に満ちて、熱烈に歓迎した日のことを。
それをまた「有事立法」を通して“戦争できるふつうの国”にしたいですか？
イラク復興支援は、国連中心の話し合いで。
自衛隊を派遣してはいけない！「戦地」に送ってはいけない。（山本 60代 女性）



空気の様に存在していた「憲法九条」が、危機にさらされている。イラク派遣を目前に、
新聞紙上で見る自衛隊の様子や小泉首相の強気は、戦争を経験しない者でも、日本の
行く末に不安を抱かざるをえない。不気味な様子だ。多くの人が、「この状況は、戦争へ
の道に突き進んで来たあのころと同じだ」と口をそろえて言っている。今、国民が何を思い、
どう考えていようと、また、自衛隊員がどんな気持ちでいようと、“お国のため”反対も出
来ず戦地へ赴かねばならないとは。また、「イラクの人たちのために精一杯頑張ってきた
。」としか言いようがない自衛隊員の気持ちも複雑であろう。

一方で、何故、くい止められないのか非常に不思議な気がする。日本国民は心から賛
成しているとは思えない。周りの人たちが諸手をあげて賛成する人などいない。慎ましく
生活する人たちには、イラクの人たちの状況を何とかしなければならぬと言う気持ちも
ある。しかし、それと派兵は別問題ではないだろうか。

この、不思議は、派兵により富を得るもの、慎ましく生活する者達から吸い上げた税金
を懐にしまい込める者達がいることを意味する。

みんなで、反対の声を上げよう！そして、今こそ、平和憲法を守ろうと声を上げよう。
(N. 50代 女性)



私は自衛隊のイラク派兵に反対します。

21世紀を迎えたとき、多くの犠牲者をだした戦争の20世紀から、平和な21世紀の幕開けだと期待しました。しかし、アフガニスタンからイラクと戦争が続いています。あるうことか「憲法9条」で戦争を放棄した日本がイラクへ自衛隊を派遣する、というではありませんか。

私には2人の子供がいます。人を殺したり、人に殺されたりするためには育てたではありません。今回派遣される自衛隊員の親、兄弟もきっと同じ気持ちだろうと思います。

国連の決議を経ずに、大量破壊兵器を口実に先制攻撃したイラク戦争。でも最も多くの核兵器、世界最大の軍事力を保持するのはアメリカです。戦争で傷つき、亡くなった多くのイラクの人々。そして今も、テロで、アメリカ兵に殺されています。米英が使用を認めた「劣化ウラン弾」で、殺され、健康を破壊され、これからも被害を受け続けるイラクの人々。

復興支援を言うなら、国連中心に全世界が協力していけるよう努力すべきだし、アメリカには「日本は平和憲法があるので自衛隊は派遣できない」とはっきり言うべきです。第二次世界大戦後 復興し経済発展した日本にたいする中東の人達の尊敬と信頼を裏切ってもいいのでしょうか？

日本は誤った、危険な道へ踏み出そうとしています。

けっして自衛隊を派兵してはいけません。

平和を、憲法9条を大切にしましょう！ (50代 女)



小学校六年生の時、田舎の祖母から一冊の本をもらった。『藤原てい・流れる星はいきている』その本の題名を忘れないくらい一気に読んだ覚えがある。

こんなに辛く苦しい思いをした人達が何人もいたことがショックだった。

その後何度か図書館でこの本に出会い、飛び飛びながら読み返したりした。母親となってから読むそれはあまりに悲しかった。

祖母とはあまり行き来がなかったので直接戦争体験などを聞いたことは無い。でも今になって思えば祖母がこの本を選んだのは戦争を知らない孫の世代に何かを伝えたかったのに違いないと思う。

本読み会の(文庫のおばさんの会)で目にした原爆の絵本も強烈であった。子供達は、怖いからと言ってその絵本を見るのをいやがった。

家にいて子供達の世話や家の中の事をしていた穏やかな時間、平和と子供の未来についてさまざまな願いを持っていたのに、子供達は大きく成長して大学受験など控え、私自身仕事を持つようになった。時代と共に変わる仕事内容やパソコンを相手の職場、子供達の進学・・・毎日の自分の暮らしをただ漠然と考えても、もっと大きな平和や日本としての取るべき道を誰か第三者まかせにしている。

『憲法九条』戦争の放棄をうたった日本の憲法は、子供心にも誇らしいものであった。ただ毎日に流されていても願うのは、『戦争はやめて、子供達を戦場には送たくない』という母の思い。

先日、本棚から一冊の絵本を取り出した。レオ＝レオ二作 谷川俊太郎訳「あいうえおのき」最後の言葉は、「ちきゅうにへいわを すべてのひとにやさしさを せんそうはもうまっぴら」であったと思う。(匿名希望 44才 女性)



自分が傷つけられるのはイヤ。自分の子でも同じこと。隣の子でも同じこと。友達でも同じこと。たまたま公園で一緒になった人でも同じこと。誰も皆同じこと。そして自分が傷つけなければならない人ができてしまうなんて悲しい。(匿名)



「蟻の穴から堤も崩れる」という譬えがあります。この度の小泉内閣による自衛隊のイラク派遣はまさにこの譬えを地で行くものと思います。イラク復興支援という美名のもとに憲法9条改変を既成事実化する意図が明らかに読みとれます。自衛隊が火器を装備して他国に入るとは、いかなる理由があれ、明らかに憲法違反です。このことは日本の将来に取り返しのつかない禍根を残すことになりはしないか大変気にかかることです。

テロリストが??するイラクへ武器携帯の自衛隊を派遣することは、テロリストにとっては、アメリカに荷担する日本兵士の介入と受け取られ、攻撃の対象とされる羽目になる可能性は極めて高いと言わざるをえません。ひとたび派遣のために武器が持ち出され、使用され、既成事実化すれば、たちまち憲法9条が文字通り有名無実となってしまうことを惧れます。

誰もが明らかに予想できる危険な道へ日本は歩みだそうとするのでしょうか。その道は、いつか来た危ない道ではないでしょうか。日本は、今まさに岐路に立たされていると言えます。

危険な道はこれだけではありません。自衛隊のイラク派遣先での報道陣の取材は生命の保証が出来ないため制限するという政府発表がありました。このことは報道の自由を奪おうとするものであり、見過ごし出来ない恐ろしい道ではないでしょうか。絶対軍国主義の悪夢を再び現実のものとしてはなりません。しかしながら、数多くの関心事に取り囲まれている現在の日本人はある意味では大変危険な状況にあると考えます。自分とは関係ないと思っている間に、自分の国が戦争に巻きこまれており、ある時否応なく戦争に駆り出されるという事態が起こりつつあります。今、自衛隊員がおかれている状況がまさにそれではないでしょうか。

原爆被害を経験した唯一の国が半世紀そこいらで平和の誓いを自ら放棄するなんて実に情けないではありませんか。自国民の命を第一に考えられず、未だにアメリカ政府から脱皮できない日本政府の見識は私にすれば日本国民に対する罪です。

日本がまことイラクの平和を願うのであれば、アメリカ軍をイラクから撤退させ、国連による平和復興をアメリカにも、国連にも強く働きかけるべきだと思います。テロ集団をもあきらめさせる世界規模の協力システムを築くための努力が日本に求められていると思います。

蟻の穴が大きくなる前にくい止めること、イコール自衛隊のイラク派遣を思いとどまることであり、これが過去の教訓です。(吉崎 60代 男性)



「あたらしい憲法のはなし」(B6・69頁)は、日本国憲法が公布されて10ヶ月後の昭和22年8月に文部省によって発行され、全国の中学一年生が教科書として学びました。私は恩師の情熱のこもる授業をはっきり覚えています。

しかしながら、戦後59年・・・我が国の変貌ここにきわまれり。私たちは今まで何をしてきたのかと自責の念にかられます。

学校教育が真綿で首を絞めるが如く絡め取られる一方、軍需産業が手をこまねいて憲法改悪を待っています。政府は言葉巧みに世論操作を強めています。

私たちは今、一刻の猶予も許されない事態に対し、草の根から「平和憲法」を守れと叫び続けましょう。(馬庭京子 60代)



日本を人類福祉国家に

最近、国益という言葉をよく耳にします。同盟国アメリカの要求に応じて、戦争復興支援の名の下に自衛隊を派遣すること、それが国益になるのでしょうか？世界で唯一の被爆国であり、敗戦という多大な犠牲の上に得た日本国憲法は、絶対平和、つまり戦争をしないことを明言しているのです。そしてそれは全世界の国々に認められてきたことです。日本は戦争をしないという憲法を持っているから、過去60年間平和が保たれてきたのです。

平和呆けとか言う人がいますが、それではその人達に聞きたい、では戦争をしたいのですか？あの悲惨な戦場に前途有為な若者を行かせても良いのですか？あなたの子ども、孫達を戦場に送れますか？日本の国益というならば、世界の国から尊敬を得ること、平和憲法を有する日本にしか出来ないことをするのです。戦争をしないという憲法を護って、人類福祉国家であることを明言する、それを国是とすることです。

最近の新聞に「難病のイラク男児を救え 治療へ来日 名古屋大学病院受け入れ」という記事があり胸が熱くなりました。しかし今日、世界では何十億という人々が飢えと病に苦しみ、多くの人々が亡くなっています。その救済に日夜献身的に働く人々も多くいます。けれど団体や個人の善意はたとえようもなく尊い行為であっても限りがあります。

それを日本国が人類福祉国家として名乗りを上げたら一体どれほどの救済が可能になるのでしょうか？世界の国から尊敬を集め、日本国民は胸を張って平和憲法を誇らしく思うことでしょうか。(真鍋 60代 女性)

* 参考:和田重正「自覚と平和」(くだかけ社)



自衛隊のイラク派遣には絶対反対です。テロの標的にされるのは間違いなしです。

私の父は戦病死です。母と特に上の兄二人は厳しい義理の父には辛く当たられ、それは苦労しました。それでも母は私たち三人の子どもたちを養って貰うため、身を粉にして働いて、働いて、病気になっても医者にかかれずそれは苦労しました。

イラクへ向かうための自衛隊の方々の荷物にはどれも思い思いのお守り袋がつけられているのをテレビで見て、「どうぞ元気で帰ってきてください」の心を込めてお守り袋をつけられたのを思うと胸がいっぱいになり、涙が出てきました。

この自衛隊のご家族のためにもイラク行きは今すぐにでも中止されるべきです。(60代女性)



イラク戦争開始から早1年が経とうとしています。平和憲法のおかげで、これまで日本は戦争をしない国と信じてきたのに、あっという間に国民の多数の意見も聞かれず自衛隊の海外派遣を許す結果になり残念でなりません。

人道支援とかっこ良く聞こえますが、イラクでの死傷者は増大し、いつ終わるか分からない戦地で不安な毎日を過ごしてられるでしょう。残された家族の方も命がけの仕事に早く帰ってきて欲しいと耐えてられるでしょう。日米同盟でアメリカの言いなりになっている小泉政権に、戦争に巻き込まれるのは絶対に止めて欲しいと訴えます。

広島・長崎に落とされた原爆の恐ろしさを知っている日本は、世界に向かって永久平和を守る立場を買いたいと思います。(中村サ 50代女性)



2月29日、栗東町で行われた「アレン・ネルソンさんとともに平和を考える集い」に参加しました。貧しさ故に、海兵隊員としてベトナム戦争に参加したネルソン氏が、兵士としての訓練の時代、ベトナム派兵前の沖縄でのこと、戦場ベトナムでの体験、復員後苦しんだPTSDのことなどを切々と語って下さいました。

殺すか殺されるかの戦場、その戦場で必要とされるのは人ではなく殺人マシンであると。アメリカ人であるネルソン氏が私たち日本人に対し「あなた方の身の回り家族や友人に戦争で亡くなった人や傷ついた人がいないのは憲法9条があるからです。世界に誇れる9条を守り世界に広めなければなりません」と明言されたのには、頭をガツンと殴られた思いでした。

9条を大切に思わないわけではなかったのにその意味を考える機会は少なくなり、空気が同じように自然にいつまでもあると思ってしまっていたのかも知れません。なし崩しの自衛隊のイラク派遣は違憲だと声をあげなければならないと意を新たにしました。(鈴木晴代 50代)



人身御供

派遣された自衛隊の部隊は、隊員の交替はあるかもしれないが、短期間で帰還できるとは思えない。「人道支援」の建前を象徴しているのがユーフラテス河の水を浄化する大事業だが、これだけでも途中で切り上げてしまったらどうなるのか。

「何のために来たのか」とサマワ住民からも、日本側からも追求されるにちがいない。本来の目的が「人道支援」どころか、米軍の一部を帰還させる穴埋めであることを考えれば、なおさらである。イラク全体が戦地になっている現実を見れば、長期滞在の結果は「殺し合い」の悲劇でないと思う方がおかしい。自衛隊員は事実上「人身御供」に送られているようなものだ。その目的は「米国に対する国際協力」だとされている。それはそのとおりだが、はたしてそれだけだろうか？

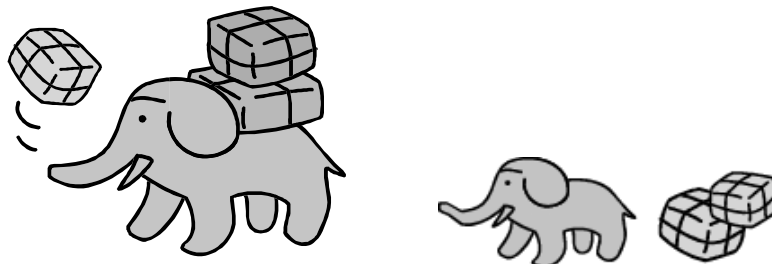
イラクに提供すると伝えられる巨額の「経済」支援の中身は、とりあえずは多数の警察車両だと伝えられている。自衛隊がサマワに運び込んだピカピカの車両も高性能で高額のものだろう。このような軍事や治安用の物資を生産し、供給しているのは誰だろう？自衛隊が犠牲を出しながら長期戦に引き込まれれば引き込まれるほど、そのおかげで儲かる者がいるのではないか？小泉自公政権の背後にうごめく「日本人」が、平和を心から求めるイラク・日本国民に挑戦していることを忘れてはならない。(京 童:きょうわらべ 60代)



今思うこと

軍服をきた日本人はイラクで何をしているのでしょうか。
派兵って何ですか？人を助けに行くのに兵隊ですか？
実態がよく分からない13歳です。

ただわかるのは、今の支援がほとんど無意味だということだけ。(綾乃)





私の父は、第二次大戦の末期にフィリピンのルソン島マニラ近郊で戦死をしました。軍医として招集され、野戦病院内でアメリカ軍の襲撃の犠牲になったそうです。

今から2,3年前に古い物の整理をしていた時、父が生前医学博士号を取得する為に書いた論文の写しが出て来ました。(以前からの母の話では、戦死の公報が入ってから博士号が取得出来たとの通知が届いた、という事です)何10年ぶりかで、目にした論文でした。私自身年を重ねたという事もあり、以前よりは、人生というものの何たるかも分かっている為か、とても無念に思いました。それは、私の無念さでもあり、父の思いでもあります。勉強に励み、努力を積み重ね、これから花開くという時に、戦争に取られ想像もつかない様な過酷な運命の中で、虫けらの様に死んでいった父です。私は、この古い論文をコピーして身近な人達に見てもらっています。私の父は、こういう仕事をしていたのだと知って欲しい為に。

9年前、父の50回忌(私の50歳の時)厚労省の慰霊巡拝団に加わり、かつての戦場跡に行きました。湖があり、辺り一面青いきれいな花が咲いていました。私は少し、ほっとしました。その折りに知った事ですが、今も太平洋に位置するかつての戦場になった国々に、放置されている遺骨を遺児の有志の方々が、収集に力を尽くして下さっています。私達にとっては、本当に頭の下がる思いがします。

今、又国の犠牲になる人が出たとしても、母達のように小さい子供を抱え何の補償も無く、苦労したような事は(公務扶助料が下りる様になったのは、ずっと後です)無くて金銭的な補償も十分に約束される事でしょう。そして手厚く葬られもするでしょう。でもそんな事では、ありません。

若くて未来の有る人達を、絶対に父の様な目には合わせたくはありません。
その様な状況になっていくかもしれない自衛隊イラク派遣には、絶対に反対します。
(50代 女性)



いつの世も女性や母が願うことは一つ。

平和です!!決して自分の子供たちをそして夫や恋人を戦場には送りたくない。

連日新聞やテレビで報道されるテロやイラク関連の記事には心が痛む。戦禍に怯えているイラク国民の7割が貧困に喘いでいるという。大国の思惑に翻弄され、罪もない人々が毎日大勢犠牲になっている。

戦後生まれの私でさえ映画や本や写真で戦争の恐ろしさは身にしみる。無関心ではいられない。近年この何でもないありふれた日常が永遠に続くとは信じられなくなってきた。羅針盤がだんだんと狂い始めてきたように思える。

平和主義を定めた9条。未来ある子供達が戦禍に巻き込まれることなく、戦争を知らない子供達として、希望と夢を持って安心して暮らせる為にもこの憲法を守り続けてほしいと願わずにはいられない。(40歳 女性)



私の目を奪ったのは誰！？

老いて盲いた母の手を引いて
風にそよぐ草原の様子を話して
あげるはずだったのに。
香りの豊かな花々の姿を話して
あげるはずだったのに。
私の手を撫でる母の涙がヒタヒタ。

私の脚を奪ったのは誰！？

私のバレーで、楽しい時間を、
人々にすごしてもらいたかったのに。
空しく私をみつめているトウシューズ。

私の手を奪ったのは誰！？

私は、私はどうしてこれからの
生活ができるのか。
恐怖と悲嘆で空ろな少年の姿。

戦争の国から伝わる奪われた命の数。

命は数ではないのに。一人一人に
代わりはないのに。殺されたくない。

戦争。苦しみだけの戦争。やめて。(E.A. 50代 女性)



私はこんな事をするために生まれてきたのではないのです。

20世紀は戦争の世紀と言われ、21世紀は戦争の無い世紀にしたいと誰もが思いました。しかし、この世紀はもっともっと恐ろしいテロと戦争の悲劇が繰り返されています。

日本は平和憲法の下で半世紀以上軍事ではなく、国際援助に多額の税金を費やし平和を守り世界に誇れる高い理想を持ってきました。戦争による劣化ウラン、地雷は今なお人々を傷つけ子どもたちの将来を奪い続けています。この人たちこそ助けなければなりません。

昨年TVドラマで忘れられない深い感動を覚えました。「さとうきび畑」の歌が流れ、主人公が「私はこんな事(戦争での殺人)をするために生まれてきたのではないのです」と。これは心の底からの悲鳴であり皆の思いです。

誰でも夢を抱き未来に向かって生きるもの、戦争に行くために生まれてきたのでは無いのです。(いずみ 60代)



イラク戦争に思う

人はなぜ、あまりにも欲深いのでしょうか。力、富、権力など持てば持つほど麻薬のように欲してきりが無い。科学が発達し世の中が進化するのは良い方に考えればこの欲によるものだけで、しかし、きりが無い。

それも、世の中、世界のためと言いつつ権力者の欲のために動かされていく人々、うそとまやかしをうまく使い考えない人々をまき込み自分の欲望を満たしていく。そのひとつが戦争。自分の富を得る方法が行き詰まってしまうと他国へ戦いをかけ経済の流れを武器を通じてよくしようとす。それが人間という命をどれだけ失っても支配者は悪いとも思わない。富と力のある者だけが生きることが当たり前と思うおごりがあるから、西洋人の中に家畜は動物と考えずに食料と考える人達がいる。私はその差別が根本的にあるから、人間の命も、金持ちだけが得をする、権力者だけが豊かな生活をして良いと考える、差別あるいは人間区別する考えがあるのだと思う。家畜も人間も動植物もすべて命である。それは尊いものと考え食料としていただく場合も命を貰っていると感謝し尊ぶ気持ちを失ってはいけないと思う。

人間は他人より、より良き生活をしたい気持ちを持っている。だから他の人を犠牲にしても平気、それを何らかの言い訳でごまかす。なんて人間ていやな生き物なのだろう。多かれ少なかれみんな持っている本当の気持ち。いけないとは思わないけれど節度は持ってほしい。それを言い渡す何か強い力があればいいのにとす。おごり高ぶる人を叱れる人？考えを導く何かがある……

でも今何もかもベールがはがされて怖いものがなくなった今、神ものろいも結局信じるのは善良なだまされやすい人だけで、支配者、金持ち、力を持った人々には通じない。その人達が怖いのは自分たちにその力がなくなる事のみ。その中で普通の人の方がもっと賢くなつて対抗できるのにはどうすればいいのかわからない。ただむなしさを感じるのみ。

戦争は絶対いけない。悲しみを増やすだけとわかるのに止める事が出来ない。弱い力は強い力に押し切られる。フセインもアメリカも悪い。力を持つものは強いから、それが正義と押し切る。だけど本当は違うのに。なんかおかしい世の中になってきている。また、小泉さんのやり方は腹が立つ。弱いものいじめのいい加減な政治、国民はもっと平和と自分達の生活を守るため頑張つて小泉のやり方を止めさせなければならない！

これからもっと悪くなるような気がする。勝手に憲法の内容を変えない様今までの保護された部分をなくすようなやり方を止めさせてほしい。(木曾 40代)





最近私たち完全になめられてるとおもいませんか？

去年からずっとお金とられる話ばかりやん。年金や税金や介護保険やと若いもんから年寄りまで、金払え払えて言われっぱなしで、そのわりに裏金や公金横領や無駄使いはほったらかしか？生活苦しくなることばかりで、若い人には仕事も無いし。

あげくのはてに今度は戦争行って来いやて。国際貢献？人道支援てか？言葉はりっぱやけど、イラクの人がぜひにいて頼んできはったの？自衛隊の人、入隊する時外国まで行って戦争に参加する約束したはったん？そんな契約してないでしょ？憲法違反やて元自衛隊員の人も言っってはったやん。

それでも物分り良すぎる人が多すぎて、内閣支持率あんまり落ちひんし、調子に乗って憲法もかえるって。はっきり言って、首相も大臣も国会議員も、皆私たちの税金で働かせる公務員やで！！誰が憲法いじれって言ったの？条文ごちゃごちゃいじってる暇あったら、もっとみんなから集めた税金や年金上手に使う方法考えんかいな！自分たちにははっきり有利になること考えてんと、生活楽になるようまじめに仕事して！

ラップの好きな君。就職活動中の君。年金生活のあなた。自衛隊員の人。その家族の方。介護をしてる人。国際交流の活動をしてる人。子供を愛している人。人を殺したり、殺されたりしたくない人。もう一度、このままなめられっぱなしでいいのか考えてみませんか？！（匿名）



憲法9条は誇りに思います。

イラクへの自衛隊派遣は反対です。

国民の半数が反対をしても、数の力で何もかも押し通す政府。これが民主主義なのでしょうか。自衛隊が派遣されてしまい、反対をしては派遣されている隊員が気の毒だとか、黄色いハンカチとか…。方向が変に違って来たように思います。

前の戦争の時のようにはならないだろう、今は国民の意識も違う。平和の大切さも知っているのだと思っていたのに、何故か動き出さない。私も動き出せない。このままではいけないと知っているのに。ずるずるとウヤムヤに流れていき、取り返しのつかないようになってしまったら怖いことです。

60年近くも戦争をしない国、平和な国、そんな日本こそ、誰もが望んで要と思うのですが。(1.50代 女性)



戦いが破壊と悲しみ以外何も生み出さないことは皆知っています。平和を願わない人がいるはずなのにどうしてこんな状況になっていくのでしょうか。一人ひとりの声を上げていくためにも、今、目の前の市長選ではっきりイラクへの自衛隊派兵に反対しているような人に市長になってもらうのはとても大切なこと、1票に祈りをこめて私たちの代表を選びたいものです。(40代 女性)



小学生の頃、もう二度と戦争は起こらないと信じていたし、私のまわりには信じることのできるものが確かにありました。

今、ふと目を留めたテレビの画面では、元国会議員・元新聞記者の評論家たちが口々に叫んでいます。「自分の国を自分で守るのは当たり前だ。」「自衛隊に、戦える力を与えなきゃらん!」「すべて国益のため、…」誰かが憲法を守るとか、平和の大切さを唱えれば、即座に、「青臭いことを言うな!」と怒鳴りつけます。こわいですね。でも、こわいのはテレビの中だけではなくて、身近でもよく似た意見を耳にすることです。

この歳になって、参議院や野党の存在に何の意味もないことを悟り、歴史は繰り返され、人類に進歩はない、人間ってこんなにも愚かな生き物だったんだということを思い知らされました。

正直いって、今の私は落ち込んでいます。私の中にいる小学生の頃の私は世の中のあまりの変わりようにただ呆然としているのです。身動きできないでいるのです。(真弓 50代 女性)



戦争は皆が喜ばない。戦争はいけない。(神山)

人がひとを殺すのはまちがっています。平和を守るとは未来へ続ける人類の使命です。(隠岐 慶子)



イラクの子供達に平和を。日本が二の舞になりませんように。(竹井)

イラク戦争は理由なき戦争です。そこに国民や子供達をまきこむな。(植松・女)



小泉さんは自分の息子を派兵の自衛隊と一緒に行かせられますか？
TVにだす事ばかりではなくイラクへもやれば良いと思う位です。(今村)



イラク戦争派兵反対です。小泉さんが直接行けばいい。(河村)

若い命をイラクのためにむだにする事はたえられない。(阿部 みゆき)



早や一年経過して多くの犠牲者も出ている今、過ちを認識して早く終結して平和を求めます。(浜塚 幸子)



本当の人民支援は軍隊ではできません。早く国連中心の支援に切り替えて下さい。(植松)

配食ボランティアグループ



私の父は四人の子どもを残し、戦争に行っていたのです。父が亡き後(68歳で他界)、部屋を整理したとき手帳が出来てきて知りました。薄茶の布地で作られている手帳です。大切にしまってありました。その中に、子どもたち一人一人の名前がぎっしり書かれていました。

留守を守っていた母は、二十数枚もある田畑をほとんど一人で守っていたとのこと。ひざに水をためながら、そして心臓を悪くして亡くなりました。戦争の恐ろしさを痛感します。今、我が子を戦場に出すなど考えたくも思いたくもありません。胸が張り裂けます。

政治家(憲法九条を守ろうとしない)の国民を思いやる心のなさに、ただただ言葉がありません。残念です。(男の子三人の母 50代)



戦後 60 年、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争 etc.に加担することなくこれたのも、“憲法9条”があったからに他なりません。連立政権になってから有事立法をはじめとして諸々の悪法が国会を通過し、日本はどこへゆくのかと不安が募るばかりの日々でしたが、今回のイラク派兵という現実と直面してそれが全て下準備だった事が明らかになりました。

あの忌まわしい太平洋戦争を幼稚園児で大阪のど真ん中で体験した私は、テレビから流れる派兵される自衛隊員の服装こそ違え、国防色の兵士を日の丸の小旗をうち振って見送ったあの日と何ら変わらない光景を見て、繰り返し過ちを犯す人間の愚かさ言葉に失いました。

大きな国民の犠牲の代償に“憲法9条”という宝物を手にし、世界に誇らしく戦争放棄をうたってきた日本が崩壊しかけています。

戦争の世紀と言われた20世紀が終わり21世紀こそ平和の到来を！あらゆる可能性を持って生まれてくる子どもや孫たちに安穩の人生を！と強く願っていたのに未来が暗澹としてきました。

アメリカの大量破壊兵器調査団長の「イラクに大量破壊兵器は無かった」発言で侵略と占領の大義名分が崩れた今、政府は直ちにアメリカに追従することをやめ、イラク派兵の即刻中止を求めます。

同時に平和の砦としての“憲法9条”を守り抜くために運動を輪を広げてゆくためにはどうすればよいのかと考えています。(H.H. 60代)





知人の某教授の話によれば、「自らの見解とは異なる他者の意見にも耳を傾ける懐の深い総理との感を受けた」と聞いていたが、さにあらず、これだけ多くの国民が反対したにもかかわらず、米国から催促されるままに莫大な経費を投入して自衛隊の派遣を続けている。

原爆投下により、日本の敗戦、復興と苦難を乗り切った先人の苦勞も喉元過ぎればの感じで、また再び日本を危険な状態に引きずり込もうとしている政策に反対せずにはいられない。何のための憲法9条ですか。イラクの復興支援といっても、米国に追随したにすぎないと思う。いまだに大量破壊兵器は発見できず、米国はそれを認めないばかりか、日本の首相も「見付からなかったということはなかったという証拠にはならない」という苦しい答弁をしている。

今のイラクでは、敵は米国、敵の味方の日本も敵になる。これ以上外交官、自衛隊員、民間人の犠牲者をだしてはならない。軍靴の音を追い払おう。我々の手で。(岡田 古都 1933.10.20 生)



ほんとは 何もわかっていないのかもしれない。
日本がイラクに自衛隊を行かせた意味を。
もしかしたら、今の私たちの行いが 子どもたちにふりかかる代償となるかもすれないのに。
もう一度 私たちが何をしているのかみつめなおしたい。(恩田 40代)



今回のイラク派兵まで、日本は、第二次世界大戦以降、戦場に家族を送り込むことなく、子どもたちは、家族や知人を戦争で亡くす悲しみや、苦しみを味わわずにすんできました。

それは、私たちの国だけが持つ、憲法第九条のおかげだと思います。
先の戦争で、戦争の苦しみや、悲しみ、恐怖を味わい、愛する人を亡くすという身を切られるような辛い経験をし、戦争は嫌だ！二度としたくない！という思いを味わったはずなのに、私たちの大切な憲法第九条が見直されようとしているなんて信じられません。また、変えようとしている人たちの中に、幼くして戦争を体験した人たちがいることも、信じられない事実です。

今、笑顔で走り回っている子どもたちのために、そして、未来の子どもたちのために、何とかして、私たちの憲法第九条を守っていかねばと思います。

日本のためだけでなく、世界中の人たちのために、どの子ども戦争で傷ついたり命を奪われることがなく、戦争の加害者にも、被害者にも、そして、傍観者にもさせないように、どの子ども生まれてきて本当に良かったと思える世の中になるまで、絶えることなく、声をあげていきたいと思います。(M.Y 40代 女性)



二首

気持のみのわたくしゆゑに眩しきは反戦集會に集ふ人たち

戦ひがただただ好きな王の話かつて読みたる子どもの本に (新庄秀子 60代)



イラク戦争から1年。

憲法9条が踏みにじられ、自衛隊がとうとうイラクに派遣されてしまった。

このままではいけない。

何かしなくちゃという思いだけで何も出来ていない自分がいる。

この国が再び戦争することのないように、平和憲法を守る努力をしていこう。

その一歩がここへの私からのメッセージです。(50代、女性)



私の父はシベリア抑留組で戦後四年を経てから帰ってきたそうです。私は - 戦争を知らない子供達 - で、そのまま戦争を知らない大人になりました。私にとって戦争はその父や母、また同世代の人たちの語る話の中に、テレビや映画の画面の中に、又読み、読み聞かせる本の中にもありました。その話を聞いたり、見たり、読んだりする度に、その悲惨さに目をそむけ、心に言いようのない痛みを感じました。でも、私たちの生活の中に戦争は存在しませんでした。

憲法9条、それは今まで空気のように私達を包み、私達も当たり前のようにその存在を信じてきたものです。

今、その憲法9条が揺れています。私には難しい論議は分かりませんが、はっきりしているのは私達の生活の中に戦争はいらないという思いです。自分の子供達が戦場に送られ、自分はもちろん他の人を傷つけることなど絶対にあってはならないことです。

憲法9条、当たり前すぎてそのすごさが分かっていなかった。戦争放棄！私達は自分達の子供のために、また、世界の子供達のために、この憲法を守っていかなければいけないのだ。(40代 女性 4人の母)



私にとって、憲法9条は特別なものではなく当たり前のものであった。

私にとって、平和は当たり前のものであった。

争を経験していない私が心の底から戦争をしてはいけないという思いにはなれない。でも、私が心底、戦争はいけないと分かる前に気づかなければならないのではないだろうか。戦争を経験し、平和を守ろうとしている人たちの思いをきちんと受け止め、引き継いでいかなければいけないのではないだろうか。

もし、戦争が起こり、かなしい思いをしてからでは遅すぎる。今ある平和は決して当たり前のものではないはず。

後で決して後悔しないように、今、気付かなければいけない。(渋谷 30代)



小学生の修学旅行の引率で、広島に三度行きました。そのうちの二度、同じ方(被爆者)の体験談を聞く機会を得ました。その方の家は今平和公園になっている所にあり、爆弾が落とされた時少し離れた所におられたその方だけが奇跡的に助かり、お母さんや疎開してきた親戚はすべて亡くなられたそうです。

その方がご自分の体験を交えて小学生に話して下さったことは、「友達を大切にしてください。ふるさとを大切にしてください。」という二点でした。これが平和を守るために大切なことだと子ども達にもわかるように教えて下さったのです。こんな当たり前のことが今、世界中で崩されようとしています。歴史の授業の中で、日本国憲法を教え、こんなすばらしい憲法は世界中探してもないんだよ、と言っているのに、今の日本の政治家達は何を考えているのでしょうか。

正義のための戦争なんて、絶対ありえない。戦争をしたがる人間は、いつも自分は絶対安全な所において、危険にさらされるのはいつも弱い立場にいるものばかりだ、ということだけは卒業する教え子達に伝えたいと思っています。(K.K. 女性)



大量の 破壊兵器のありと言う イラクを探せど なにも出てこず
先制の いくさに勝てど次々と テロに手をやく ブッシュとブレア
先制の イラクの戦が良いならば 真珠湾も 正しいいくさ
公人の 靖国詣では違憲なり 参拝したくば 私人とすべし
警察の 予備隊育ち自衛隊 海外派遣につづくか 徴兵
繰り返す 歴史は道理か知らないが 戦争ばかりは 最低最悪
憲法の 九条誇る日の本の 民の徳は いずこにありや
イラクでは 石油をまもる占領軍 治安守らずテロつづく日々
原爆も毒ガスもなく治安なし 平和もなくて帰りもできず

イラク戦 原爆はなく 石油あり
フセインを 倒してもなお テロつづき
戦争の 後始末には テロに手をやき
戦争は 終わった筈だが テロ止まず
あわれなる 大統領は いまいかに
国連の 認めぬいくさに 旗出すな
スペインの 次がこわいな 日本かな
バグダッド 陥ちたと思えば略奪つづく
人民の 治安守れぬ 占領軍
原爆も 毒ガスもなく テロばかり
大義なき 戦争すんでも テロつづく
大義なき イラクのいくさに いらぬ日の丸
どこにいる まだわからない ピンラディン (天沼 昭 74歳)



このメッセージを書こうとして、随分時間がたってしまいました。その間、ずっと心の中で反芻していたことがあります。“具体的にどうしたら、平和を守り、子どもたちの未来を守ることができるのか”“メッセージを書こうとするのだけれど、何故こんなに時間がかかってしまうのか…”

今の日本の社会は、歴史で学んだ戦前の状況に近づいているような気がします。“いつのまにか、国民は戦争に巻き込まれていた”過去の悲惨な敗戦から、多くの事を学んだはずなのに、また同じ悲劇が繰り返されるかも知れない危険な方向に日本は進もうとしているように思えます。

国際協力のためならという大義名分のもとに、自衛隊派遣も、そのためのイラク支援特別措置法も、十分な論議もされないまま次々に可決していきます。

自衛隊のイラク派遣は、憲法違反ではないのか？国際協力の方法は他になかったのか？原点に戻るうちに、巧妙なすり替えが次々に行われる前に、国民が気づかなければますます危険な状況に陥ってしまうでしょう。

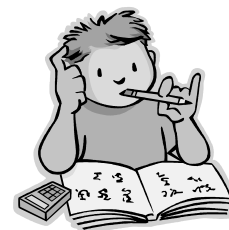
憲法9条や平和の尊さを、頭の中では、理解しているのですが、その一方で、日々の生活の中で処理していかなければならない雑事に追われ、一日が終わってしまう今の自分がいます。“頭の中”から踏み出せないのは何故なのか。このメッセージを書こうとしてなかなか書けなかった時間の中で、ずっと考えていました。そして、今も考えています。

そんな時間の中で、昭和の歴史をもう一度、学んでみようと思うようになってきました。若い世代の人たちに、日本のたどってきた“事実”を伝え、話し合うためにも。

そして、親子で、その日、世界で起こった事を話す時間を毎日少しでも持ちながら、“踏み出す”ための糸口を模索しています。(Muneyama 40代)



私は戦争の被害者になるのは嫌です。
戦争の加害者になるのはもっと嫌です。
人が人を殺してはいけないと言うことは最低限のルールです。
私たちを罪人にしないで下さい。殺人者にしないで下さい。
戦争は命を大切に思う心を麻痺させてしまいます。
おだやかな平和は私の宝物です。(たけなか まりあ)





私の田舎では自衛隊への入隊は、安定した職業(公務員)として堂々と(?)地元のおじさんが勧誘しています。子どもたちは聞きます。「おっちゃん、戦争に行くようなこと無い?」おじさんは胸を張って答えます。「日本には平和憲法がある。日本は絶対戦争しない。大丈夫。」と。

おじさんは今、憲法を踏みにじられた悔しさと、若者達への申し訳なさで泣いています。(N.T. 40代 女性)



「国家は国民を守らない」そして「あらゆる戦争に反対」という憲法9条を支えてきた戦後日本の平和主義が、大きな岐路にいま立っているように思えます。

北朝鮮問題に象徴されるように、アメリカによる平和しかないという現実認識がアメリカの戦争政策への追随を容認する根拠のようです。このいまの生活を守るために「国を守ってくれ」要求を始めた世論に、日本の平和主義はどのようなメッセージを送ることができるのでしょうか。

いま問われている戦争は、自分たちが犠牲者にならないかもしれない戦争。無関心であっても自分たちは大して困らない。

私たちの想像力が問われています。

抑圧からの解放のためにそこにすむ人々の多少の(本当は多少ではない)犠牲は仕方がないとどうして簡単にいえるのでしょうか。私たちにつながる人々もそう言って、殺されたのはほんの60年前だったのではと、私は思うのです。

「あらゆる戦争に反対」と宣言した憲法9条こそ、21世紀の新しい戦争の時代への現実的な対応だと私は声を大にして言いたいのです。(田中孝征 40代)



小泉首相に言いたい。

孝太郎さんをイラクへ派遣してください。注目度バツグン。あなたの人気はうなぎ登り間違いない!!(エンタのおばちゃん 40代)



当事国に軍事介入しないという日本の歴史と地道な民間の人道支援がこつこつ築き上げた中東やアフガニスタンとの友人関係。友人日本だからこそ出来た自衛隊という軍隊に依らない人道支援があったはずなのに、国益のための顔色伺いで軍隊によるアメリカ追従という浅はかな行為に走った小泉首相。彼は当事国で地道に友として人道支援してきた人達を危険に晒し、敵意の中に取り残し、積み上げてきたものを台なしにしまった。大量破壊兵器は見つからず、使っていないと言っていた劣化ウラン弾で多くのイラク人がガンや白血病に苦しみ、市民を狙って爆弾を打ち込み、武器を捨てた兵士を八チの巢にし、あげく今回表沙汰になってきたイラク人への虐待。アメリカが掲げていた戦争の大義も正当性も全く虚偽である事がこれだけむき出しになった今、国益のためといって自衛隊という軍隊をイラクに送ってアメリカに追従した日本政府は、誤った舵取りをしたことに対して正面から国民に対して謝罪し責任を取るべきだと思う。(高橋 45歳)



マスメディアも取り上げない有事法案ねらいは何？

よくも悪くも派手に繰り返し報道されるさまざまなニュースのおかげで、これからの私たちの暮らしを左右すると思われる「有事関連法案」が今国会で成立させられようとしています。この法案も国会でほとんど審議されることもなく、またメディアによって大きく取り上げられることもなく……

この法案は戦前の「国家総動員法」のような法律と思われませんが、戦時には国家の命令に私たちが従わなくてはならない最後には徴兵・徴用を目的としているのではないのでしょうか。こうなれば憲法 9 条もあって無きが如しの存在になってしまいます。新しく出来た法律が優先されるのが常なのですから。

日本の国がアメリカに追従する道を歩む限り、休む間もなく戦争を続けているアメリカ(他国を戦場として)に限りなく、巻き込まれてゆくことになるでしょう。アフガンの後方支援やイラク自衛隊派兵のように。

有事に備えるための法律は、日々の暮らしの中に町内会や自治会を通じてあの防災訓練のように軍事訓練が再び現実味を帯びてくることはないのでしょうか。どうかこうした不安が杞憂のものであってほしいと願いますが。

小泉首相の憲法 9 条を変えたいという発言には、平和に慣れ、普遍的真理として揺らぐことはないと思っていた平和憲法が危機にさらされていると知って大きな衝撃を受けたものでした。

政府ならずとも二大政変と言われる片方の党も「創憲」、他に「加憲」と憲法を変えようという議員が3分の2に達しかけていると聞き、あらためて心の凍る思いです。戦争の出来る普通の国したいと思っている人は、おそらく、自分は決して戦場でたたかう気も立場に立たなくてもいい人の論議のように思います。

先日、池田香代子さん(「もし世界が百人の村だったら」の訳者)がこの事態を憂慮して絵本を出されたそうです。この法案の重要性を学び世論を広げ年金問題や拉致被害者の方の問題のように具体的にわかりやすく取り上げられるようマスメディアに働きかけたいものです。

孫子の未来のために平和を愛し、生命をいとおしむ、世界のすべての人々と共にたたかいに疲れ果て、愛するものを失い、からだや心が傷つき病む人々へできることは何か……。問い続ける日々です。(Y. 60代)





石垣りんの詩によせて

目覚めていたこの人 - あるいはもっと今より
こういふことが見えたのかもしれないこのころ。
でも それが戦後たった数年のことであったというのは驚く。
そして今数十年。

雪崩のとき

人は
その時が来たのだ、という

雪崩のおこるのは
雪崩の季節がきたため と。

武装を捨てた頃の
あの永世の誓いや心の平静
世界の国々の権力や争いをそとにして
つつましい民族の冬ごもりは
いろいろな不自由があっても
またよいものであった。

平和
永遠の平和
平和一色の銀世界
そうだ、平和という言葉が
この狭くなった日本の国土に
粉雪のように舞い
どっさり降り積もっていた。

私は破れた靴下を縫い
編物などをしながら時々手を休め
外を眺めたものだ
そして ほっ、 とする
ここにはもう爆弾の炸裂も火の色もない
世界に覇を競う国に住むより
このほうが私の生き方に合っている
と考えたりした

それも過ぎてみれば束の間で
まだととのえた焚木もきれぬまに
人はざわめき出し
その時が来た、という
季節にはさからえないのだ、と。



雪はとうに降りやんでしまった、
降り積もった雪の下には
もうちいさく 野心や、いつわりや
欲望の芽がかくされていて
“すべてがそうになってきたのだから
仕方がない”というひとつの言葉が
遠い嶺のあたりでころげ出すと
もう他の雪をさそって
しかたがない、しかたがない
しかたがない
と、落ちてくる

ああ、あの雪崩
あの言葉の
だんだん勢いづき
次第に広がってくるのが
それが近づいてくるのが

私にはきこえる
私にはきこえる (1951.1.)

“他もそうだからしかたがない”“普通の国になろう”...永世平和などとは非現実的だという声は今が大きい。9条についてははっきりと否定するのがトレンドだ。でも降り積もった平和を体験した人々の声をもっと大事に聞いてみなくては。国家は戦争をするもの、戦争をしない国を目指すなんて、幼稚なこと、なのでしょうか？正義のための戦争があるわけない。正義の名で戦われた数々の戦争は、実情はドロドロしたものだった。末端では「お国のため」という軍国少女が痛ましいほど本気であっても、総元締めは陸軍と海軍の勢力争いであったり、武器商人の思うつぼであったり、政治を動かすゼネコンの大もうけであったりする。そしてより残忍な殺人マシンの養成で人でなくする訓練が行われるのだ。今になって明るみに出てくる戦時犯罪、戦時性暴力はぼろぼろ出てくる。考えても見よ、ビルマ内陸の最前線にまで慰安婦を連れて行った皇軍とは何者か。

戦時性暴力は、しかし、旧日本軍の専売特許ではなかった。政治犯に対する軍事政権の拷問、捕虜に対する虐待...ジュネーブ条約違反がゴロゴロだ。うちだけじゃない、他でもやってる...そういう問題じゃないでしょう。戦争というものは、そこまで人間を非人間的なものにするのだ、ということじゃないのか。つまりそれであるならば、戦争を起こさない努力をするのが人間的であるということじゃないのか。

戦争展の最終日、西野留美子さんの講演があった。ながらく「従軍慰安婦」問題にとりくみ、急逝した松井やよりさんとともに戦争と女性への暴力に取り組んでいる人だ。このほど、日中戦争時の戦地における「従軍慰安婦」について、実証的に調査した本をまとめた。そのことの報告だったのだと思う(私は参加できていない)。その本の中で、旧日本軍兵士が犯した中国女性に対する性的虐待はすさまじいものだ。吐き気をもよおさずにはいられない。「慰安所」(というものもおぞましいが)の外での、住民女性への数知れない強姦、

そして惨殺。「慰安所」自体役目を果たしていなかった勢いだ。夫の目の前で複数の兵士による輪姦、その後女性は、一家の恥として、居場所がなかったり、家族に殺されたり、自殺したり...

え？これって、現代、イラクのアブグレイブ収容所でのアメリカ兵によるイラク人に対する虐待の話じゃないの？4月ごろ、毎日のように普通の新聞や、子どもも見るテレビのニュースで流れていた映像と、話と、まるでウリ二つじゃない？なんと、貧困な奴らよ、兵士たるもの。そして、戦争の行きつく先には、これしかないのだ、いわく、人権蹂躪。そこで最も傷つくのは女性、子ども。そして、そのように非人間的になることを要求される男たち。

もういいかげん、戦争しない方向で、ものごと考えてみようよ。傷ついた、瀕死に近い地球、その地球をさらに何度も破壊できるほどの武器の量を持って競っている人間。今ほど憲法第9条の持つ意味を、みんなのものにしたいときはない。やるかやられるか、やられる前にやる、そんな二者択一でないもうひとつの道の可能性こそ9条の本領なのだと思う。

(由美子) 参考文献 『戦場の「慰安婦」 拉孟全滅戦を生き延びた朴永心の軌跡』
西野瑠美子著 明石書店 2003.12



多国籍軍に「参加」と明言した小泉首相。どんどん国民の意思とは関係なく流れていく。「武力行使はしない。非戦闘地域に限る。イラク特措法の枠内での活動。活動は日本の指揮下にある。」うーん。本当だろうか。そこまで苦しい説明をしてまで多国籍軍に入らなければならないのか。

既に自衛隊は、米兵を輸送したり補給物資を運んでいるという。武力を使う兵を運びながら、武力行使をしていないと言い切るところに既に無理がある。

国民への説明責任は全くないのか。一方的に決定し、「決まりました」で済むのか。為すすべのない弱者を切り捨てて、生活を脅かしてまでも、やるべき事なのか。

イラクの人々を支援することは大切だが、全く手順を踏まず、ただ、政府の好き勝手に進めていることは大いに問題がある。本当の人道支援とはどうあるべきか、もっと考えていかなければ、この先恐ろしい事態が待っているように思えてならない。(N. 50代女性)



私はいわゆる第二次世界大戦の戦中派です。空襲、疎開、食糧不足を、子どもながら体験しました。出征兵士を送り、防空壕も掘りました。膨大な犠牲者と損失を出して、日本は戦争に懲りて、戦争を放棄した筈です。

日本の戦争放棄は、アメリカへの御追従だったのでしょうか。そして今またアメリカに加担するために、九条を変えようと言うのでしょうか。

戦争を知らない若い世代も、戦争の悲惨さを知らないわけではありません。私たちの体験した五十年以上前は、今のようにメディアが逐一戦状を報じることはありませんでした。今はイラクの惨状、善良な市民へのいわれのない残虐など即刻、テレビ、新聞で報道されます。それは決してよそ事ではありません。戦争に巻きこまれたら、日本にも起こりうることです。考えただけでも恐ろしいことです。次の世代のためにも九条を守るべきだと切に願います。(70代 女性)



日本国憲法について

わが国の自衛隊が「人道支援」の名のもとにイラクに派遣されたことは、社会に大きな論争を巻き起こす原因となった。そこで問題となるのは、自衛隊のありかた、国際社会における日本の役割、アメリカを始めとする外国との関係などであるが、やはり日本国憲法を抜きには考えられない問題である。

そもそも日本国憲法は、明治憲法の反省点を踏まえGHQ(実質はアメリカ)が示した案をもとに作られた憲法である。その背景には、アメリカにとって日本が再び脅威とならないようにという意図があった。日本国憲法の3原理は、「平和主義」、「主権在民」、「基本的人権の尊重」である。憲法第9条ではわが国は戦力を持たず、また戦争を永久に放棄することを定めている。

ここでまず問題となるのは、自衛隊を戦力とみなすか否かということと、たとえ戦力とみなされなくとも(それが直接戦闘に参加せずとも)戦場に赴くということである。自衛隊が戦力とみなされるならば、それは国の最高規範である憲法違反である。また、自衛隊が戦力ではなく戦闘に参加せずとも、戦場へ赴く事自体が戦争に(間接的にであれ)参加することとみなされるならば、戦争の放棄という観点から憲法違反であるといえる。

また、自衛隊(員)の安全保障も大きな問題である。戦場では、戦闘に参加する、しないに関らず常に危険が伴うものである。もし自衛隊(員)が何らかの攻撃を受けた際に、(身を守るためにであれ)反撃することを認めるのならば、結局は戦闘(戦争)に参加することになり憲法違反となる。逆に反撃を認めずただ黙って殺されるというのならば、それはあまりにも自衛隊員の基本的人権を軽視した暴挙であり、これもまた憲法違反といえる。

このように、自衛隊が現在のイラクに派遣されているということは、多くの解決しなければならぬ問題を山積みにしたままであるという観が拭えない。「人道支援」は非常に重要な事であり、日本が支援することはおおいに結構なことである。しかし、国の最高規範である日本国憲法に矛盾することは、まさに法治国家としての破綻を意味するといっても過言ではない。

そのような背景があり、憲法改正を訴える声の一部で熱を帯びてきている。たしかに憲法を改正し戦力保持や戦争の参加を認めれば、自衛隊を速やかに(少なくとも合法的に)派遣することができる。また、国際社会からの批判も減少し、戦勝国になれば景気回復へのカンフル剤になる可能性もある。しかし、わが国は二度の敗戦を経て、戦争の悲惨さを身にしみて知っている国として、「平和主義」を貫き憲法第9条を誇りにしていく国家であることを願ってやまない。

自衛隊のイラク派兵が憲法違反であるならば、アメリカは自身に対して矛盾することをわが国に押し付けたといえる。日本国憲法制定はGHQの指導のもとで行われたが、結局はアメリカの占領政策のひとつであった。したがって、アメリカはわが国が戦争に参加できないようにしたにもかかわらず、現在は(正確には日米安全保障条約締結から)戦争に協力するよう要請しているのである。これは、わが国に対する暴挙であると同時に、アメリカ自身に対する裏切りであるといっても過言ではない。(岸名 20代 男性)



戦争体験を伝えるために出来ることは？

時代とともに、ますます人と人とのつながりが希薄になっていく中、戦争を体験された方の数も亡くなられたりして減っていき、「伝える」ということが(戦争に関してだけでなく、他のさまざまなことにおいても)途切れていく傾向にあることは、残念なことだと憂えております。

修学旅行などで広島や長崎を訪れ、語り部の人からじかに戦争体験を聞く機会のある人たちは、まだ恵まれていると思います。

それが出来ない場合でも、何らかの形で、体験者から話をきく機会を作れるように出来ないものでしょうか。

また、親や教師など、まわりの大人たちが心しなければならぬこととして、子供たちが大人になるまでに、平和の大切さを深く心にとどめてくれるようなものを、一つでいいから自分の中に持てるよう、見守り、導いていかねばならないと思います。

何でもいい、多くなくていい。一つでも心にとどくものがあれば、その一つは、大きな力へとつながっていくのではないのでしょうか。

「ヒロシマ 語り部の歌」(大野充子・作)を読みながら、またしてもそんなことを思ったりしました。

地球の上で戦争の絶えない世の中、同じ日本にある沖縄のことですら、私たちはあまりにも知らないことが多い現状です。

「かえてきたキムジナー」というお話は、あかちゃんの時からいつも戦闘機の音と振動におびやかされて泣いていた少女が幼稚園に行けなくなったところからはじまるお話です。

「ハテルマシキナ」(桜井信夫・著)は沖縄を描いた少年長編叙事詩です。

私たち本土で暮らすものは、ほとんどこうした沖縄の現実を知らないのではないのでしょうか。旅行で沖縄を訪ねてもただの観光だけで帰ってしまったり……。

こうして本を通して心の訴えを聞くことで、少しでも気づくことがあることは、大切なことだと思えました。

政治的にどうかでなく、幼い子供たちや名も無い人たちの心の悲しみ、傷み、苦しみを、心から心へ伝えてくれる本の力というものを、もっともっと見直してもいいのではないのでしょうか。

これらの本を含めた児童書・絵本などを通して、戦争と平和を考えるささやかな会を、私たち「いちいち会」のメンバー3人が、7月7日(10時~3時)、ハートピア京都地下一階ボランティアルームで開きます。良かったら気軽にのぞいてみませんか？ (M・ニシヤマ)



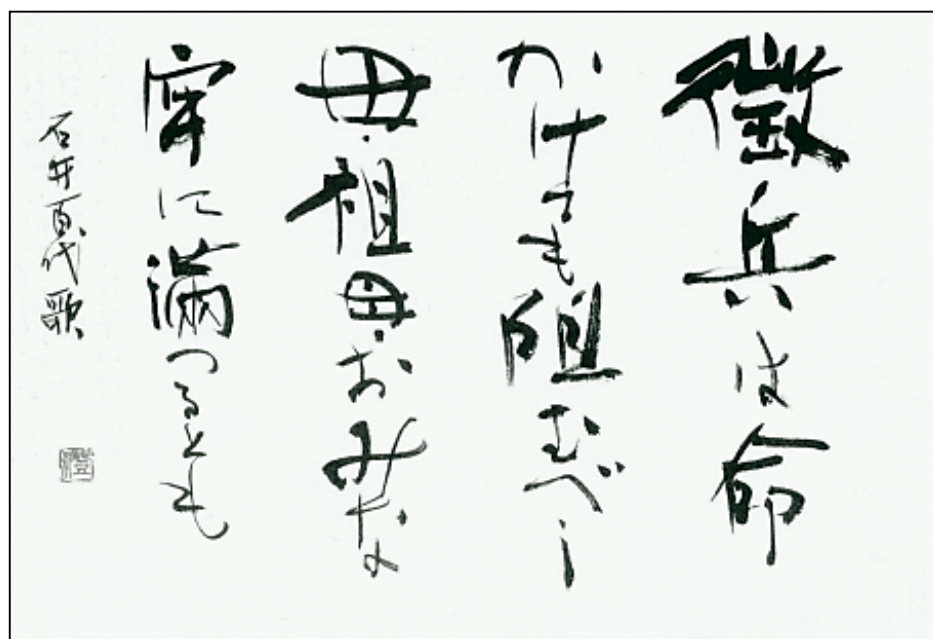


日本の国連の常任理事国入りが取り沙汰されているようです。しかし、9・11テロ以降の世界を見ると、国連の安全保障理事会は、すでに世界秩序を維持する機能を十分に持っていないように思われます。

第二次世界大戦の戦勝国が当時持ち得た最良の理想。それが形になったものが日本国憲法の第9条だったとするならば、日本は、そのことを積極的に引き受けるべきではないか。

具体的に言うならば、第二次世界大戦でファシズムと戦い、その後の世界で正義の観念を体現し、これまで平和を維持しようと努力してきた常任理事国にかわって、これからは軍事力を背景とせず、紛争を解決するために有効な新しいシステムを構想すること。

これこそが、日本に、歴史的に与えられた使命なのではないでしょうか。(大隅直人 1967年生まれ)



書は長谷川澄湖氏

1975年「有事立法」の名がはじめて出現した事を詠まれた短歌
その頃の朝日歌壇にて第一首となる。(作者は故人)



憲法9条を選びとった初心にかえろう

この9月、家族の仕事の関係でソウルを訪れ、市内のソデムン(西大門)刑務所歴史館と、ソウルから車で2時間余りのファソン(華城)市にあるジェアムリ(堤岩里)3・1運動殉国記念館を見学する機会を得た。ソデムン刑務所歴史館は、日本の植民地支配下、独立運動の闘士たちが捕らえられ拷問を受け処刑された地に作られており、地下の独房や獄舎も見学コースに入っている。またジェアムリは、1919年に広く大規模に展開された独立運動の中で、その指導者と目された人々が日本軍によって教会に閉じ込められ焼き殺された村である。

いずれも日本人見学者にとっては胸苦しい歴史的事実を突き付けられる場ではあったが、特にジェアムリ3・1運動殉国記念館は、日本語パンフレットの表紙にもある「祖国独立のために、日本帝国主義の侵略に立ち向かって殉国した愛国烈士29人の魂を慰め、民族の自主独立精神を振り返るために設立された教育の場です」という設立主旨に沿った歴史的資料やパネルの展示が、印象的であった。日本軍の非道な独立運動弾圧ぶりも紹介されているが、民族の自主独立をめざして闘った先人たちの姿をまず第一に自国の子どもたちに伝えたいという意志が強く感じられた。もちろん、日本の植民地支配に対しては「赦しこそすれど、忘れる勿れ」(ジェアムリ3・1運動殉国記念館の日本語パンフレット)である。

今回の韓国訪問で、各地に国や地方自治体などによって独立記念館が設置され、多くの韓国の子どもたちが学校からや家族で訪れていることを知った。翻って日本の子どもたちはどうだろうか。最近原爆資料館を訪れる学校が減っていると聞く。自国内の原爆投下や空襲に因る戦争の惨状を知らせることもだんだん避けられるようになっていく。まして客観的歴史的事実である日本の他国への侵略行為をちゃんと学ぶ機会もなくおとなになってしまえば、日本の若者たちは、韓国をはじめかつて日本が侵略していた国々の若者たちと対峙した時、どう向き合えばいいのか、困惑するばかりだろう。双方に互いの国の歴史的関係について共通の客観的認識があつてこそ、同じ地平にたつて今後の関係についても意見を闘わせることができるというものである。

これらの施設を見学して改めて強く思うのは、我々日本人にとって、憲法第9条は、まず、それまでの日本の朝鮮半島や台湾・中国大陸・東南アジア各国への侵略行為への反省をふまえ、今後隣国をはじめ近隣諸国とどのようにつきあっていくかの決意を表明したものでなかったか、ということである。この第9条があつてこそ、日本は戦後の国際社会で曲がりなりにも国際的信用を勝ち得ていたのではないか。実際、9条の主旨を逸脱した国際貢献は、その信用を落としこそすれ、なんら日本の世界平和への役割を示すものとはなっていない。

憲法第9条は、制定後57年を経た現在から振り返ってみて、いわゆる自虐史観だとか侵略者の負い目などから生まれたものではなく、またアメリカの都合で押し付けられたのでもなく、日本国民が自国の今後歩むべき“戦争放棄”という道すじを、正しく選びとったものだと思う。

昭和22年に文部省が中学1年生に配布した『あたらしい憲法のはなし』には「戦争の放棄」について次のような記述がある。「...これを戦力の放棄といいます。「放棄」とは「すててしまう」ということです。しかしみなさんは、けっして心ぼそく思うことはありません。日本は正しいことを、ほかの国よりさきに行なったのです。世の中に、正しいことぐらい強いものはありません。...」。我々現在(いま)のおとなも、このような誇りと自信をもって、憲法第9条を次の世代に伝えていかなければと思う。(永井麻里 50代女性)



力を信ずる人・理性を信ずる人

先日、私は「平和のための伏見戦争展」(平和のための伏見戦争展実行委員会主催)に参加した。そこで、非常に感銘を受けた発言があったので、この場をかりて紹介させていただきたい。

その発言は、「(平和を望みながらも・平和のために)憲法9条を変えたい人と、守りたい人」についてであった。

憲法9条を変えたい人は、「力」を信じている。「平和」を作り出すためには、「力」が必要であり、そのためには多少の痛みや流血はやむを得ない。話し合いで全てを解決するのはあくまでも「理想」であって、「現実」には「力」が必要である、というのである。

一方、憲法9条を守りたい人は、「理性」を信じている。「平和」を作り出すためには、「力」は不要であり、話し合いこそが重要で、そのためには膨大な時間がかかるであろうがやむを得ない。すべてを「力」で解決するのは「理性」の欠けた野蛮人のすることであり、「理想」を追い求めることこそ、「人間」(として)の証である、というのである。

ここで共通しているのは、両者ともに「平和」を望んでいることである。両者の大きな違いは、前者は今目の前にある「現実」に視点を置き、即効性のある「力」を信じていることである。

逆に後者は、時間をいとわず「理想」を追求し、人間(としての)の「理性」を信じていることである。

両者ともに一理あるし、それぞれが信ずるものによって、「平和」を望み作り出そうとしている。しかし、「どちらのほうが省エネか？」と問うならば、やはり後者の方であろう。

なぜなら、「理性」による話し合いでは「時間」を消費するのに対し、「力」による戦争では、街や環境を破壊するだけでなく、それらの復興にも「時間」を消費するからである。特に、環境の回復には途方もない「時間」が必要である。「時は金なり」というならば、「時間」の浪費は、金銭(経済)的にも大きな損失といえる。

また、多くの人命も失われるが、一度失われた命は、どんなに時間やお金をかけても戻ることはない。

そういった観点から「平和」をみると、「力」より「理性」のほうが省エネであるといえる。

人にも地球にもやさしく、「平和」を築きあげるのは、「力」ではなく「理性」であると考えられる。(岸名 20代 男性)





戦争体験を伝えるために出来ることは？ Part 2.

前回同じテーマで拙い文章を書かせていただいてから、戦争体験を伝えるために、ささやかなことでも身近なところで出来ることが何かないだろうかと、ずっと考えてきました。

最近新聞で紹介されていた「孫たちへの証言」第17集(新風書房・1365円)には、全国から寄せられた513編の手記から75編が収録されています。例えば、このような本を一家に一冊置いて、一年に一度でもいいからその中の一編、二編でも、子ども達に話して聞かせるというのはどうでしょうか。

あるいは、戦争と平和を考える絵本を、家の本棚にある本の仲間に加えて、機会を見つけて読み聞かせをしてみるとか・・・、普通の生活の中で出来ることはあると思います。中学生や高校生などのお子さんのおれる家庭では、戦争をテーマにしたテレビなどを家庭で見ても(この間ビデオを借りて見せていただいた「さとうきび畑の唄」は良かった)、ビデオに撮っておいたのを仲良しのお友達に呼びかけて、一緒に見る機会を作るとか・・・。

また、大人のお友達同士で、お茶会を兼ねて、戦争をテーマにした詩の朗読のテープやビデオを聞くなど、大きな活動出来なくても、これなら出来るということが探せばあるのではないのでしょうか。しょうもない、提案にもならないことを書いたかも知れませんが、こんな事でも実行してみて、ささやかでも心のふれあう時間が持て、輪が広がっていけば嬉しいことだと思うのですが。

皆さんも、伝えるために身近なところで出来ることを考えて、やってみませんか。そして、またメールでも、そのことについて教えてください。(M.ニシヤマ)

まえがき

童話屋編集子

五十年前地球は青かった。だが子どもたち、いまぼくたちが住んでいる地球は、ガカーリンが見た青よりも、心なしくすんで見えないか。

二百年、資源の浪費と戦争の惨禍で地球はへへへだ。もうこの辺で止めないと、千年はおろか百年だって地球はもちそうにな

い
ぼくたちにできることは三つある。一つは、浪費の抑制。地球は宇宙に浮かぶ小さな星だ。太陽光のほかにはよそから何も供給されない。みんなで分け合って少しづつ使っしかな。二つめは大自然と共生すること。人間が生きるためにたのいのち、植物や動物たちと手をとり合って暮らすことが大切だ。地球上のいのちは、巨大な生態系を形成して億という年月をかけて悠久の循環をくり返し、一瞬もその営みを止めることはない。三つめは、世界中の七十億の人間が、民族や宗教やイデオロギーの対立を越えて、平和に共存する道を探ることだ。人間は過去の世紀で愚かな戦争に明け暮れた。戦争は多くのいのちを奪い、幸せに生きる人たちの人生を破壊した。そして微妙なバランスに立つ地球の生態系循環を狂わせた。

このあたらしい憲法のはなしは、日本国憲法が交付された翌年に、文部省が作った中学一年用の社会科の教科書を復刻したものだ。日本国憲法には、人が正しく生きる道が書かれている。人はだれも差別されずに平等であり、自由であり、幸せに一生を送る権利があると説いている。民主主義と国際平和主義が、この小さな地球の上で人類が生き残ることのできる唯一の道だといつことを、この教科書からせひ学んで欲しい。

未来の子どもたちにこの青い地球を残していこう。そうぼくたちが決心し、勇気ある行動をとれば、地球は悠久のいのちの星として青くかがやきつづけるだろう。

憲法の思いが伝わる一文として紹介いたします。

復刻『あたらしい憲法のはなし - 検定教科書』童話屋 まえがきから引用



この 60 年近く一応平和な国日本が一首相の言動により、こんなにも簡単に自衛隊のイラク派遣にまで事態が進んでしまい、今や改憲を叫ぶ国に変わり果てた現状に、信じられぬ思いのまま前の戦争の経過を思い出して正直悲観的な気分になっていました。

為政者の強い発言に迎合してしまう人間(特に日本人と云うべきか)のもろさを種々目のあたりにして、いつもゴマメの歯ぎしりしかできなかった自分を恥じ、虚しくさえ感じるこの頃であります。

長らく文庫にかかわって来て、関心を持たざるを得なかった学校教育にも大きな影響を受けるのは必至で、現に君が代・日の丸問題や<教育基本法改正促進委員会>なるものが作られ、「お国の為に命を投げ出してもかまわない日本人を生み出す」と明言する議員(民主)まで現れたり、広島为学校さえも原爆や平和教育を偏狭教育とされて、教えるのが難しくなっている経過が数字のデータとなって新聞に報告されたりすると、即、私が子ども時代に学校できわめて非日常的体験をした戦中の記憶が蘇り、まさに悪夢としか云いようがありません。けれども体験した者にしかわからないとしたら、語る者も居なくなる今後はやはり本でしょうか。子ども達には関連の本をどんどん読ませて代理体験させるしかないのでは…と。

7月の例会で西山さん達が沢山集めて紹介して下さった、作者の思いの結晶とも言える重い重い数々の本をどれだけ子ども達に届けられるか、文庫の荷も重くなりそうですが、残念にも最近の低年齢化によっておチビさんばかりには、さしずめ、地球上の生あるもの全てを愛し、やさしい心を育んでくれる本などを選び、将来にも<殺さない>人間に育ててくれることを祈るばかりです。そして大人である私達は、現憲法を守り続けなければならないと、改めて肝に銘じております。平和と自由万歳!(湯浅)

(『子どもの本と文化を考える会』通信から)



戦争を扱う本は当然テーマが重く、又、悲惨なものが多いのでどうしても敬遠してしまいがちですが、今回はお手伝いという気持ちで気軽に引き受けてしまいました。

私は両親が戦争体験世代で、小さい頃より見聞きしてきたので、色々な事を知っている方かと思っていましたが、今回読んでみて初めて知ることがいっぱいありました。アメリカ国内で、日系人の人々が理不尽な処遇を受けたことも、テレビや映画などで知っていた以上に、悲しく心が痛むものでしたし、波照間からの強制移住によるマラリヤ禍、台湾での差別や敗戦による別れ等…、戦いのうしろに隠れている一般の人々の生活の中に、たくさんの戦争を知りました。

今、サッカーの試合が連日のようにテレビで放映され、日本国中が熱くなっています。アジアカップは中国が開催地で、試合前に流される日本国歌へのブーイングやむき出しの反日感情が、画面を通して伝わってきます。もちろんサッカーの選手達になんの責任もないのは明らかですが、その事をただ非難するだけでなく、日本の若者も過去の戦争でおこった事柄に、もっと意識を向けて欲しいと思います。

日本は戦争に負け、アメリカの占領下におかれまして。そして戦後 60 年たち、経済的には豊かになったけれど、戦争での事実は伏せられ、しっかり教えられず、どんどん戦争を知らない、戦争で何がおこったかを知らない若者が増えてきました。今、又、戦争へ進もうとしている様に見えます。戦争を扱った本は確かに少ししんどいけど、一人でも多くの人がこの事実を知って、もっと戦争回避への強い意識をもって欲しいと思いました。

終わってみて、この機会が与えられて良かったとの実感です。(宮崎)

(『子どもの本と文化を考える会』通信から)

「九条の会」が十日発表
したアピール(全文)は次
の通りです。

◇
日本国憲法は、いま、大
きな試練にさらされていま
す。

ヒロシマ・ナガサキの原
爆にいたる残酷な兵器によ
って、五千万を越える人命
を奪った第二次世界大戦。
この戦争から、世界の市民
は、国際紛争の解決のため
であっても、武力を使うこ
とを選択肢にすべきではな
いという教訓を導きだしま
した。

侵略戦争をしつづけるこ
とで、この戦争に多大な責
任を負った日本は、戦争故
弊と戦力を持たないことを
規定した九条を含む憲法を
制定し、こうした世界の市
民の意思を表現しようと決

心しました。

しかるに憲法制定から半
世紀以上を経たいま、九条
を中心に日本国憲法を「改
正」しようとする動きが、
かつてない規模と強さで台
頭しています。その意図
は、日本を、アメリカ方に従
って「戦争をする国」に変

わちを「戦争をする国」
を拒否し、するために、教
育基本法をも変えようとし
ています。これは、日本国
憲法が実現しようとしてき
た、武力によらない紛争解
決をめざす国の在り方を根
本的に転換し、軍事優先の
国家へ向かう道を歩むもの

と地域の民衆の生活と幸福
を脅かすことでしかありませ
ん。一九九〇年代以降の地
域紛争への大國による軍事
介入も、紛争の有効な解決
にはつながりませんでした。
だから、東南アジ
アやヨーロッパ等では、紛
争を、外交と話し合いによ

が歓迎しない自衛隊の派兵
を「国際貢献」などと言う
のは、思い上がりでしかあ
りません。
憲法九条に基づき、アジ
アをはじめとする諸国民と
の友好と協力関係を発展さ
せ、アメリカとの軍事同盟
だけを優先する外交を転換
し、世界の歴史の流れに、
自主性を発揮して現実的に
かわっていくことが求め
られています。憲法九条を
もつこの国だからこそ、相
手国の立場を尊重した、平
和的外交と、経済、文化、
科学技術などの面からの協
力ができるのです。

国民一人ひとりが、九条を
持つ日本国憲法を、自分の
ものとして護り直し、日々
行使していくことが必要で
す。それは、国の未来の在
り方に対する、主権者の責
任です。日本と世界の平和
な未来のために、日本国憲
法を守るという一点で手を
つなぎ、「改憲」のくわだ
てを阻むため、一人ひとり
ができる、あらゆる努力
を、いまず、始めることを
訴えます。

「九条の会」アピール

(全文)

えるとともにあります。そ
のために、集団的自衛権の
容認、自衛隊の海外派兵と
武力の行使など、憲法上の
拘束を事実上破ってきてい
ます。また、非核三原則や
武器輸出の禁止などの重要
施策を無きものにしてしま
うとしています。そして、子

です。私たちは、この転
換を許すことはできませ
ん。
アメリカのイラク攻撃と
占領の泥沼状態は、紛争の
武力による解決が、いかに
非現実的であるかを、日々
明らかにしています。なに
より武力の行使は、その国

って解決するための、地域
的枠組みを作る努力が強く
られています。
二〇世紀の教訓をふま
え、二一世紀の道路が固わ
れているいま、あらためて
憲法九条を外交の基本にす
えることの大切さは、つき
りしてきています。相手国

私たちが、平和を求め
る世界の市民と手をつなぐた
めに、あらためて憲法九条
を活動する世界に輝かせた
いと考えます。そのために
は、この国の主権者である

二〇〇四年六月一〇日

- 井上ひさし
- 梅原 猛
- 大江健三郎
- 奥平 康弘
- 小田 実
- 加藤 周一
- 澤地 久枝
- 鶴見 俊輔
- 三木 睦子

上記のようなアピールが著名な学者・文化人によって発表されました。
賛同者は個人・団体をこえて、大きく広がっています。

憲法前文

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令、詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理念を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理念と目的を達成することを誓ふ。

第二章 戦争の放棄

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これ尾を保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

第九十九条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。

平和と憲法9条に関するサイトを取り上げました。

自由法曹団京都支部 http://www.kyoto-jlaf.jp/
京都憲法会議 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/kyokenpo/
憲法会議 http://www.kenpoukaigi.gr.jp/
平和のための伏見戦争展 http://homepage3.nifty.com/hushimiheiwa/
平和のための京都の戦争展 http://homepage2.nifty.com/kikanshi-keiji/sensouten03.html
ノンフィクション絵本「戦争のつくりかた」 http://www.ribbon-project.jp/book/
週間金曜日 http://www.kinyobi.co.jp/Recent
九条の会 http://www.9-jo.jp/
立命九条の会 http://www015.upp.so-net.ne.jp/rits_9-jo/
岸名玲叔奈さんの「平和を願って」 http://www.geocities.jp/laona_gr/peace.html
PEACE ON Iraq (相澤恭行さん) http://npopeaceon.org/index.html
森住卓ホームページ http://www.morizumi-pj.com/
イラクの子どもを救う会 http://www.geocities.jp/nowiraq/
憲法9条・メッセージ・プロジェクト http://www.k3.dion.ne.jp/k-9mp/index.htm

平和と憲法9条に対するあなたの思いをお寄せ下さい。

メッセージは順次掲載していきます。

字数、表現形式は問いません。(文章、詩、短歌 etc.)

一言メッセージも大いに歓迎です。

匿名・イニシャル・ペンネームも可。

年代、性別などをご記入下さい。(Ex. 50代 女性)

メッセージは下記の方法でお寄せ下さい。

ファックス: 075-441-0383 (山本)

メール : natsu_i@nifty.com (池村)

手渡し : 裏面の呼びかけ人

メッセージ URL

<http://kyokoren05.vivian.jp/bunko/heiwa/table.html>





あとがきにかえて

平和への願いをさまざまに、たくさんの方が熱いメッセージを寄せてくださいました。心からお礼を申し上げます。ホームページには到着順に掲載されていますが、冊子にまとめるにあたって、読みやすいよう編集させていただきました。(冊子が遅くなりましたがお詫び致します。)

編集後の出来事を振り返れば・・・

イラク戦争から1年半を経た現在も、連日ニュースはイラク人の死亡を10人・・・100人と、一人一人の死としてでなく数で伝えられています。

つい先日、アメリカのパウエル国務長官によって「大量破壊兵器発見断念」のニュースが報じられました。では一体この戦争は何だったのでしょうか。

改憲の話は2005年5月3日を目途にどんどん進行しています。再び愛国心の名の下に、“個人”よりも“国家”のためという人間作りを目指していると思われる、教育基本法の改定も同じ歩みで進んでいます。

そして日本の主権はどうなっているのでしょうか。

8月に起きた“沖縄に米軍ヘリ墜落事故”、日本政府として、結局抗議はなかったようです。日米合同演習の強化、在日米軍の再編、基地問題・・・国連の常任理事国入りには「憲法9条は障害」という内政干渉まで受けています。

核兵器の脅威・・・パキスタンのカーン博士の事件をきっかけに“核の闇商人”の実態が次第に明らかになりつつあり、テロの手に渡る可能性も指摘されています。

予感される新しい戦争への脅威

痛ましいロシアのテロ事件後、ロシアやオーストラリアにも「先制攻撃論」を呼び起こしているようです。まさに、報復の連鎖になるのではないのでしょうか。

このように世界も日本も大変な状況にあります。それでも武力によらず、平和、人類、地球をまもるために私たちは何が出来るのか。憲法9条への思いが日本中にあふれ、世界の願いにつながるには、どんな方法が可能なのか。

人間は過去の過ちをくり返さないことを学習できる最高の生き物の筈です。是非、さらなる知恵や力をお寄せ下さるようお願いしております。

この冊子でピリオドを打つのではなく、これを新たな絆として、今後も共通認識を高め、何らかの形でメッセージを交換してゆくことが出来ればと思います。ホームページは引き続き開いております。電話による連絡、問い合わせもお待ちしております。どう



呼びかけ人：

上原多美子・矢崎紀・後藤由美子・千代田真美子・永井麻里・奥田文子・日向禮子・真弓美矢子・三上啓子・山本優子・池村奈津子(順不同)

連絡先・お問い合わせ 山本 優子 Tel.&Fax : 075-441-0383

池村奈津子 natsu_i@nifty.com